

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

（1）計画タイトル

幸田町SDGs未来都市計画SDGsで創る緑住文化都市 ～森林空間で未来へつなぐまち幸田～

（2）2030年のあるべき姿

2030年のあるべき姿を「しごと が ひと を呼び、ひと が しごと を呼び込む そして、この好循環を支えるまちの活力向上を実現」とし、経済面・社会面・環境面の目指す方向性を定め、SDGs達成に向けた取組を進めていく。

（3）2030年のあるべき姿の実現へ向けた優先的なゴール



（4）2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2024年（現状値）	2030年（目標値）	達成度（%）
1	製造品出荷額等【8.2,8.3, 8.5, 8.9】	2022年3月 8,771 億円	2023年3月 9,113 億円 ※2025年3月は調査を実施しないため	2030年 11,000 億円	15%
2	定住人口【8.4,8.9,11.2】	2023年10月 42,255 人	2025年8月 41,895 人	2030年 44,700 人	-15%
3	年少人口【3.4,3.8,4.2】	2023年10月 6,719 人	2025年3月 6,516 人	2030年 7,420 人	-29%
4	アンケート「町に住み続けたい」と思う人の割合【11.7,17.17】	2023年3月 58.1 %	2025年3月 57.9 %	2030年 70.0 %	-2%
5	森林面積の割合【15.1,15.2,15.4】	2023年3月 43 %	2023年3月 43 % ※2025年3月は調査を実施しないため	2030年 43 %	100%
6	2030年度の温室効果ガス排出量【7.2,7.3,13.2,13.3】	2013年4月 1,222 千t-CO2	2023年3月 620 千t-CO2 ※2025年3月は調査を実施しないため	2030年 660 千t-CO2	107%

（5）「2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

- 指標1：「製造品出荷額等」
・達成度が25%未満となった要因は、地元産業の強化不足等が要因だと考えられる。今後も地域の産業や企業と、大学との連携等を中心とした継続的な地域発のリノベーションの創出に取組み、地元製品の販売促進にも取り組んでゆく。
- 指標2：「定住人口」
・達成度が25%未満となった要因は、これまで進めてきた企業誘致や区画整理等による人口増加率の低下等が原因と考えられる。観光交流や学びの場づくりによる人の流れを創出し、地域の活性化につなげ外国人を含む関係人口の拡大と、まちづくりにより定住環境の向上にも取り組む。
- 指標3：「年少人口」
・達成度が25%未満となった要因は、少子化等の影響によるものと考えられる。妊娠期から子育て期に渡る切れ目のない支援を提供するワンストップ拠点の整備や、教育環境の整備、医療環境の整備にも取り組んでゆく。
- 指標4：「アンケート「町に住み続けたい」と思う人の割合」
・達成度が25%未満となった要因は、安心して暮らせる環境の整備不足が影響していると考えられる。多世代が遊び、学び、健康かつ快適に過ごせる環境（サードプレイス含む）等の整備を進める。